沼田町 1 人 1 台端末の利活用に係る計画 (公立学校情報機器整備事業)

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

文部科学省が推進する GIGA スクール構想は、全ての児童生徒に 1 人 1 台の端末と高速なネットワーク環境を提供することで、日本の教育のあり方を大きく変えようとする取り組みである。この構想の実現により、従来の画一的な授業から、一人ひとりの児童生徒に最適化された、より深い学びへとシフトすることが期待されている。

沼田町では、ICT 環境における各種アプリケーションを使用し、生徒 1 人 1 人が自身の進捗や習得状況に応じた学習ができる環境づくりと、双方向のコミュニケーションの円滑化によって、「個別最適な学び」と「協同的な学び」を推進している。本取組を通じ、予測困難な時代の中でも通用する「確かな学力」を身に付けられるよう、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、これらを活用して課題解決するための思考力・判断力・表現力等を育成することを、目指すべき学びの姿としている。

2. GIGA 第 1 期の総括

沼田町では、令和 2 年度から 1 人 1 台端末の使用を開始し、また端末の導入に併せて Wi-Fi 等の校内ネットワーク環境の整備や、周辺機器の整備を実施した。令和 5 年度以降は、AI ドリルや授業支援用アプリケーションであるロイロノートを導入することで、より一層、「個別最適な学び」と「協同的な学び」を推進可能な環境へと近付けることができた。コロナ禍を経て、あらゆる環境に浸透したオンライン会議によって、不登校児童生徒に対し、授業を配信するという今までにないアプローチで学びの保障が可能となったことも特筆すべき点である。

教育現場に訪れた大きな変革に対し、現在でも教職員個人の得意・不得意等の要因によって、個々のアプリケーションの使用頻度の差は見られるものの、校内での研修や、授業改善の取組、また、教職員の働き方改革の推進によって、ほとんどの教職員が日常的に当たり前使用する環境となった。先述のロイロノートは、授業下では双方向のコミュニケーションツールでありながら、課題の配信と回収を補助し、校務下では職員会議の省力化・ペーパーレス化に大きく貢献するなど、ICT は学校現場にとって無くてはならない存在になりつつある。

一方で新たに見られるようになった課題もある。それは継続的なハード面の整備についてである。数年おきの機器の更新費用や、年間の維持管理経費など、イニシャル・ランニングの両面で膨大なコストが今後も恒常的に発生することが見込まれる。自治体としては、GIGA 以前よりも増大した経費に対し、財源確保の重要性が増している一方で、教育現場のために十全な整備が必要不可欠であることから、引き続き計画的な運用・更新をしていく必要がある。

2ndGIGA では、ゼロトラスト環境の構築が推奨されており、ネットワーク環境が大きく変化することで、セキュリティ対策の向上および教職員の働き方に大きく寄与することが期待される。現場教員の現状の環境に対する改善意向も徴取しつつ、より効果的な整備となるよう取り組んでいく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 「1人1台端末の積極的活用」

授業や家庭学習、アンケートの配布・回収など、教育のあらゆる場面での1人1台端末の活用を進めている。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

AIドリルを活用することで、児童生徒が自身の進捗や習得状況に応じた学習を可能としているほか、授業支援用アプリケーションであるロイロノートを使用することで、教師と児童生徒、または児童生徒間の意見交換を促進している。

(3) 「学びの保障」

不登校児童生徒に対し、オンラインで授業を配信する、希望者に対して民営塾の学習プログラムによるサポートを実施する。また、特別な支援を要する児童生徒に対しては、必要に応じて端末機能やアプリケーションの使用を認め、柔軟に対応しつつ、すべての児童生徒の学びが保障される環境を構築する。